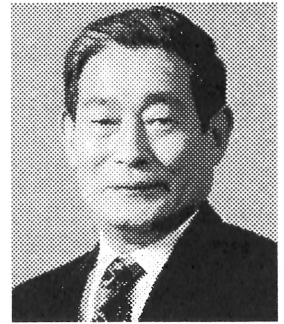


日本ボンド磁石工業協会 会長
原田 英樹



昨年の暮れ以来電子部品および材料の急速な落込みにより、ボンド磁石関連業界も、極めて厳しい経営状況となっております。各社それぞれに格段の経営努力をされ、現状に耐え、次の発展の方向に舵を取りつつある事と拝察致します。このような時期にあっても減収減益、または赤字とならず、健全に経営しておられる会社もあり、感服しております。これは何が異なるのか、考えております。

先ず極めて重要な事は、自社の「基盤技術が何か」を十分認識し、それをベースに事業を発展させる事と考えます。かつ「発展の方向を社会のニーズに正しく整合」させている点だと考えます。例えばハードコピーの分野なら、デジタル化とカラー化ですし、自動車分野なら安全、快適、環境対策の方向でしょう。これらのニーズの方向で当社の関係する製品は何かを社長自ら明確に判断し、如何なる困難があろうとも、敢然と挑戦出来るよう、体制を整え、従業員を激励鼓舞し、真に特色ある開発製品を作り上げねばならないのだと考えます。更に「好不況に関係なく常に努力する」事が重要なのだと思います。現在情報通信環境は十分に整備され、正しい情報を安価に迅速に得る事が出来るようになりました。これを社長も含め、真に全社的に十分活用して行かねばなりません。

自社の基盤技術を見失い、浮き上がった技術を導

入し、独自の開発製品を作りきれずに、いたずらに巨額の設備投資に走り、挫折した企業を見ております。発展する社会のニーズを理解できず、基盤技術を生かしきれない多くの事例も知っております。好況の時に特色ある製品の開発努力を怠った企業も承知しております。この失敗を良く反省し、活かしてゆかねばなりません。

会社も協会も基本的には同じだと考えます。協会の基本方針「ボンド磁石の発展につくす」ため、グローバルに最新の生産および技術の情報を収集し、標準化を計り、協会員にお役に立つよう努めて参ります。生産のグローバル化は生残のために、必然的に進行して行きます。また構造改革および技術革新の進行は確実に見えてきております。これらの変化に遅れることなく、会員の皆様の弛みないご支援、ご協力にお答え出来るよう、日本ボンド磁石工業協会を運営して行きます。

ある時期になれば、Port Wheeler が言うように「日本」を「Global」に、また「ボンド」を削除して磁石専門の、世界的な協会に発展させる事が必要なのかもしれません。12月のシンポジウムでArnoldのDr. John Ormerodが「国際磁性材料協会」の話がされますが、それを契機に検討が必要と思います。

以上